

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590500187		
法人名	株式会社Kitahamanokaze		
事業所名	グループホームタナギ		
所在地	秋田県由利本荘市岩城内道川字水呑場28-30		
自己評価作成日	平成31年2月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成31年3月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①調理は利用者に満足がいくようにレベルUPを図ると共に、利用者の要望を聞きながら献立を立てている。</p> <p>②ミキサー食の工夫や、とろみのつけ方などの工夫も凝らしています。③明るく笑顔が絶えない施設環境作り。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>介護経験の長い代表がホームを運営していく上での思いを理念に表し、ホームの目標として取り組んでいます。開設から1年が経過し、ミーティングやさまざまな取り組みを通して職員への浸透を図り、利用者のホームでの暮らしを支援しています。出かける機会を多く持ち、これまでできていたことを継続し、或いは新たな可能性を探り、充実した生活を送ることができる支援に努めています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①人々の心に触れ人々の役に立ち ②創意工夫にて地域に潤いを発生させ ③共に成長し共に分かち合う ④お互いの自由を尊重し合う ⑤それは楽しい人生の形に成る	介護経験の長い代表が率先して職員に対して理念の浸透を図り、日常の介護において実践できるよう取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新年会や・クリナップ・お祭りの参加・自治会総会参加・近所のお年寄りの意見交換	神社の祭礼に協力する等、地域との関係性が保てるよう努めています。代表の出身地でもあることから、近所の方が気軽にホームを訪れて利用者と交流しており、地域の方が来やすい環境がつけられています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域の方々の相談相手に成り、オムツの使用方法や廃棄方法、オムツの寄付を頂くなどの繋がりを持っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進委員会により、自治会長や町内会長との意見交換を通し、地域の情報を収集する事や、災害時の避難方法のありかたなどの、意見交換をする。	会議は定期的に開催され、ホームの取り組み等に対して意見を出していただいています。	運営基準に基づき、常に行政が参加できる開催方法の工夫を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進委員会に、市役所長寿支援課長を配置し、常に情報収集をすると共に、的確な指示を得る工夫に努めている。	運営推進会議や地域ケア会議を通じて情報収集し、生活保護担当部署とも連携が図られており、必要に応じて相談に対応していただく等、行政との協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、研修をすると共に、推進委員会にて、都度拘束状況を公開し、適切な指示対応を図っている。	研修を通じて、また、言葉遣い等のケアの現場で感じたことを注意して職員の理解を深めています。	止むを得ず身体拘束を行う場合の手順や記録様式の整備を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者及び代表者以外に、主任を二名配置する事により、徹底した虐待防止に取り組んでおり、虐待に及びそうな行為を聞き入れた場合は、状況改善に真摯に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会話が出来ない利用者には、家族様との連絡を密にする事により、権利擁護するように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所に際し、重要事項説明書をもとに、納得が出来る説明を心掛け、改訂点が出来次第に解りやすい説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関する意見に関しては、家族様の施設訪問時に要望確認すると共に、ホームページにて施設内状況を公開する事で、外部とのコミュニケーションを取れるように取り組んでいます。	利用者、家族が意見を言いやすい関係づくりに努め、時に自宅を訪問し、面会時にも利用者の日頃の様子を説明して要望を聞き、サービスに反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて、提案や要望を聞き入れることにより、改善を図っている。	代表が現場にいることから状況が把握しやすく、職員の意見や提案を取り入れて改善に繋げる等、運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の向上については、管理者および主任と連携をとりながら、処遇改善をはかったり、資格取得を推進するなどを通じて、労働に対するやりがいの向上に取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育にあたっては、代表者と管理者が力量を把握しながら、介護技術の向上につとめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流に関しては、「計画作成担当者」の経営施設への交流を含め、グループホーム連絡会などに参加するなどをして、活発な交流をする事で、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所に際しては、本人との綿密な聞き取りをしながら、出来る限り要望を取り入れるように取り組んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者の要望を聞き取るとともに、家族様におかれましても、十分な話し合いや聞き取り等をする事で、関係作りに取り組んでいます。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護職員は各入居者に対し、担当者を配置する事のほかに、調理の手伝いを共に行うなどの協調関係を築く取り組みをおこなっています。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者と家族間の絆を深めるためには、家族様との連絡を密に取りあいながら、入居者の生活状況を詳しく連絡するようにしている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人に会いたいとか、好きで行きたい所があるという場合は、出来る限り実現させてあげたいと思います、例えば写真を見せるとか、連れ立って遊びにいったりは、時々実現出来るように取り組んでいます。	家族が面会に訪れたり、電話の取り次ぎをしたりしてその関係が途切れないように支援しています。訪問理容の方とは顔馴染みになっています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様にとって、会話しやすい雰囲気作りを大切に考えたり、孤立を防止するために、スタッフが目配り気配りと、話しかけを多くすると共に、共に作業の手伝いをお願いするなどの、取り組みを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後に、入院した病院を訪問し、状況確認をしに行ったりはしています。また家族の方が望むようであれば、時々電話連絡なども行なっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の自由を出来る限り尊重し、希望を叶えるように取り組んでいます、欲しい衣類や生活必需品などの買い物の要望があればできる限り応じています。	家族との話し合いから、また、利用者との日常の会話から希望を聞き、生活に取り入れています。	思いや意向を把握し、アセスメント表に記録する事によって情報の共有ができる体制の構築を期待します。
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の利用者様のフェイスシートから得た情報など職員間で共有している。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の担当を決め、変化に気づいた場合はカンファレンスを行い対応を話し合っている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様には各担当者が配置されており、計画作成者と意見交換をしながら、より本人にマッチした介護が出来るように、アイデアを出し合い、日頃の管理者を通じたカンファレンスも取り込みながら推し進めている	担当職員がモニタリングして管理者が確認し、介護支援専門員が作成しています。記録では確認できませんが、面会時等の家族の話や本人との日常会話から出された意向を介護計画に反映させています。	本人、家族、及び全職員の意見やアイデアが反映された介護計画を作成するために必要な様式の整備を期待します。
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りをを行い個々の状態やADLの変化を把握し、介護記録や連絡ノートなどで職員が情報を把握できるようにしている。また、その都度ケアの検討をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当施設は秋田県沿岸部に位置している為、天候の良い日には、海辺の散歩をたのしみながら、道の駅にて山海物の買い物をするなどの、取り組みにて心身のリフレッシュを行っています。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人一人の定期的な通院介助を行っており、本人の希望や看護師の判断が必要があればその都度受診や主治医に相談している。	入居前からの医療機関で受診している方もおり、職員が受診介助しています。ホームで対応できない時は家族にお願いしています。歯科受診が必要な時は訪問診療が利用でき、薬局とも協力関係を築いています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護者が利用者の心身の変化に気づいた際はすみやかに看護師に報告し指示を仰いでいる。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は病院を訪れ、状態を確認したり、担当者に電話で状態を確認している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した時の対応について本人と家族に説明している。入院して1か月経過し施設に戻れなかったり、介護度が上がり施設で対応出来なくなった時は連携している施設に相談している。	ホームの体制が整わないこともあり、また、医師が確保できないこともあって終末期の支援ができないことを説明しています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応方法の確認したり、夜間は職員1人のため、救急搬送時は近くの職員が駆け付けるなどの対応を確認している。また、事故発生時に備え対応を確認している。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、職員全員で避難方法の確認を行っている。町内にも災害時は協力してくれるようお願いしている。	夜間想定避難訓練は実施しておりませんが、ホーム独自に訓練を行い、運営推進会議で報告しています。玄関、非常口の他、ホールからの避難にも対応できるようそれぞれの箇所にスロープが設置されています。	夜間を想定した訓練の実施と訓練に地域の方に参加していただき、その際の役割を決めて安全に避難できる体制の構築を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	精神疾患のある利用者や自己中心的な利用者であっても自由やプライバシーを尊重し個々にあったソフトな言葉遣いにて対応するようにしている。	居室で話を聞く等、利用者の気持ちに配慮したコミュニケーションを心がけています。利用者が不快に感じることはないよう日頃の言葉遣いにも注意しています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が希望を表出した場合のみならず、担当職員は細かな配慮をもって、利用者様に接する事で、本人が心に抱える思いを解決する取り組みを行っています。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴は午前中に限らず、希望があれば午後からも入浴したり、食事やおやつは体調が優れない時などは居室で食べたりしている。レクレーションにも無理強いすることなく、参加できる人で行ったりしている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に床屋や美容院で散髪したり、衣類や下着、化粧品などの買い物の希望があれば一緒に出掛け買い物支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の調理で利用者ができそうな作業を手伝ってもらったり、調理レクレーション時にスタッフと利用者で共同作業をしている。	美味しいものを食べていただきたいの思いがあり、誕生日に食べたいものを聞いたり、戸外で食事の機会をつくる等、大切な支援のひとつとしています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食食事摂取量をチェックし、記録に記載して日常の食事量を把握している。また、むせ込みがある人にはトロミを使用したり、刻みにして対応している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で歯磨きやうがいが出来ない人は介助しており、また、寝たきりの方は口腔内をハミンググットや口腔ケア用のウエットティッシュなどでケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ交換を2時間ごとにチェックし、尿取りパットのみを交換するようにしたり、歩行困難の利用者も朝食後にトイレに座らせ排便を促したりしている。	できる限りトイレで排泄できるよう支援しています。オムツを使用している方もおりますが、清潔保持できることを意識して支援しています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前と午後に水分補給を行い、個々に応じて体操や歩行練習など促している。食事内容にヨーグルトや発酵食品などを取り入れ便秘予防に努めている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴自立している利用者は希望にそって入浴しているが、介助が必要な利用者に日勤者がいる時間帯に入浴している。	週2回以上の支援が行われており、1日おきに入りたい、毎日入りたい等々、個々の希望にも対応しています。炭酸泉をシャワーで使用できるよう設備しています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせて休養できるよう居室の環境を整え、就寝時に職員が巡回し個々の環境の状態を確認している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師は、調剤薬局から配達された利用者個々人の薬を、介護者と共に仕分けした際に、薬効その他副作用や用量を説明しながら、教育をしています。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	認知症状が診られる利用者様は、自分流の生活感を持っている為に、職員の対応力が高くなければ成りませんが、研修を通して得た技術や、インターネット検索などによって、個々人への対応技術をUPしています。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望者で近所を散歩したり、天気の良い日には、お弁当持参にてドライブに出掛けたりしています。また、由利本荘市内のデパートだけでなく秋田市のデパートにも、職員と共に買い物を楽しんでいます。	利用者個々の希望に応じ、また、声をかけて買い物に誘う等、外出の機会を多く設けてホームに閉じこもらない支援が行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様のお金は、基本的には施設管理をしています。買い物ドライブなどの際には、手渡したお金で本人が支払う援助をしたり、自分で管理出来る利用者様に関しては、少量の金額を所持して頂いています。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様とのコミュニケーションに関しては、電話連絡を望んだ場合には、適時に担当職員が管理者との相談上、電話をさせていただきます。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設全体の環境改善は、利用者様にとどまらず、職員全体が快適である事をもっとうに、意見を取り入れながら、環境美化に努めています。	空調管理を行い、過ごしやすい環境づくりに努めています。入浴時は脱衣室に椅子を用意して入浴前後の安全に配慮しています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間におかれましては、共感を持たれる利用者様は同じ空間で過ごされており、共用空間にて、自分一人で過ごしたい方には、各居室にて過ごして頂いています。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にて、御家族様がお泊りを要望の際には、移動式ベッドや寝具を用意しております。また、本人の希望に合致した空間作りのお手伝いをさせて頂いています。	室内は床暖房による乾燥がなく、適切な湿度が保たれています。家族の写真や遺影等、各自が使用したいものを自由に持ち込み、一人ひとりの状態や個性に合わせた生活環境がつくられています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内では、個々の利用者様が、自らの所持している能力を、出来るだけ発揮しながら、機能低下を起ささないよう配慮するとともに、安全に機能訓練が出来る空間作りにより、取り組んでいます。		